

地域住民への虐待防止推進に関する取組の実施

社会福祉法人 足利むつみ会



取組をはじめたきっかけは何ですか？

当法人は児童、高齢者、障害者の福祉サービス事業所があり、これまで虐待防止に関する取組は施設ごとに行っていました。

そのような折、悲惨な虐待のニュースが繰り返し報道されるなど社会問題としてクローズアップされ、法人としても一致団結して虐待防止に取り組まなくてはならないと考え、サービス横断で職員に対する啓発と情報収集を行う「虐待防止委員会」を立ち上げました。

施設内での虐待防止の取組はもちろん必要ですが、特に児童・高齢者に関しては家庭内での問題が多いことから、虐待防止のためには地域を巻き込む必要があると思い、平成28年度から地域に向けた虐待防止の啓発活動を始めました。

どんな取組を行っていますか？

法人内では、具体的な虐待事案ではなくても、「もしかしたら虐待かもしれない。」周囲の人の言動から「危ない」と感じたことなどの気付きを、虐待に関するヒヤリ・ハットとして職員から集め、委員会で分析し現場にフィードバックを行っています。

また、地域に向けた啓発活動として「虐待防止キャンペーン」を毎年行っています。

毎年、職員から募集した虐待防止標語を印字したクリアファイルを啓発グッズとして作成しています。のぼり旗を掲げたり、たすきをつけて「足利市ふれあいのつどい」や地域交流行事などで、地域のみなさまに作成した啓発グッズとチラシを手渡して配布しています。

また、「虐待防止（人権擁護）映画会」を各地区巡回して行っています。児童及び高齢者に対する虐待の事例をドラマ化した作品や、障害のある人への配慮や人権擁護をテーマにした映画を上映しています。開催の際には、自治会を通しての町内回覧、民生委員児童委員協議会、学校関係等のご協力をいただき周知を行いました。また、報道機関（17社）及び足利市広報課に対しても情報提供を行っています。

地域に対する取組は、まず法人にとって身近なところから、自分たちが何をしているところなのかを知ってもらうこと、地域とのつながりをつくる必要があると考え取り組んでいます。

取組を行う際のポイント

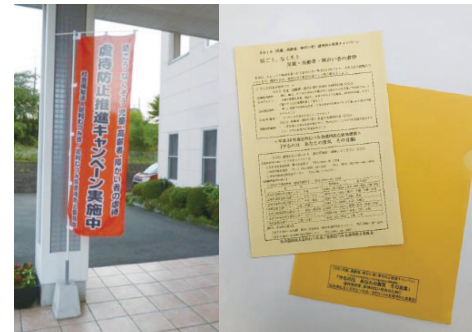
何より「続けること」が大切だと思います。成果ばかり見るのではなく、長い目で地道に一つひとつの活動を続けること。時には中身を変えながら、必要に応じて改善しながら続けることが結果的に成果につながる

という思いで取組を行っています。

また、身近なところでやれることから取り組むことも必要だと思います。職員はもとより、出入り業者や利用者の家族など、関係する様々な人たちを巻き込んで取り組むことが地域と関わる第一歩だと思います。

これからの活動について

作成した啓発グッズやチラシはばらまきではなく、直接自分たちで会場に向き一つひとつ手渡しでお配りしています。こうした互いに顔が見える活動をこれからも続けていきたいと思っています。



虐待防止キャンペーンの啓発グッズ

虐待防止推進キャンペーン

- ◆実施日 各イベントごと定期的に実施
- ◆費用 無料
- ◆内容
 - ・啓発グッズ等の配布
 - ・虐待防止啓発標語の募集・活用
 - ・のぼり旗、たすきの活用
 - ・虐待防止（人権擁護）映画会の開催
 - ・研修会の開催
 - ・虐待防止マニュアル等の見直し
 - ・虐待に係るヒヤリ・ハットの実施、検証

インタビュー協力 阿由葉 寛 / 阿由葉 弘美
近藤 照夫

もうこれ以上、虐待を起こしてはいけなく、起こさない。
みなさんと協力して活動をつづけていきたい。



私たちは高齢者・障害者・児童の3つの福祉を担う社会福祉法人として、地域に向けた取組を行う責任があると考え、地域に向けた虐待防止の活動を始めました。もうこれ以上虐待を起こしたくない、虐待をなくしたい、という思いを他の法人にも広めていきたいと思っています。

社会福祉法人 足利むつみ会 理事長 阿由葉 寛

法人概要

法人名 | 社会福祉法人 足利むつみ会
所在地 | 足利市利保町49-4
代表 | 阿由葉 寛

事業内容 | 障害福祉サービス事業、障害児通所支援事業の経営
老人福祉施設の運営
保育所、地域子育て支援拠点事業の経営 など

評価のポイント

今回応募があった取組の中で、高齢者や障害者、児童福祉といった、様々な分野において「虐待防止」という視点からの独自性のある取組であり、オリジナルグッズの製作や映画祭の開催などを通じて、地域住民等にも広く周知啓発されていることが大きく評価されました